

# サッカーにおけるカウンターアタックについてのゲーム分析的研究

大町 亮太 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導教員 望月 聡

キーワード：スピード, 選手の関わり, パスの本数

## 1. 緒言

弱いチームが強いチームに勝つための要因に、カウンターアタックにあると考える。ドリブルで開始するというのは、ボール保持者の選択肢の1つであるが、フリーな選手にパスを出せばチャンスになる場合もある。ボール保持者の選択肢を増やせれば、よりチャンスが増えると考えられる。

そこで本研究では、どのようにすればカウンターアタックの成功率を高めることができるのかを明らかにする。

## 2. 研究方法

2016年UEFAヨーロッパ選手権の決勝トーナメント15試合を映像分析する。相手チームからボールを奪い、設定時間内にシュートまで持っていったプレーを対象とする。また、それぞれのプレーについて、攻撃開始位置を3分割したエリアに記し、どこでボールを奪いどう仕掛けたのかをデータにまとめる。

## 3. 結果

カウンターアタックとして認められたプレーは102回であった。前半と後半を比べると後半の方が仕掛ける方が多かった。

アタッキングサードでは、サイドでのボール奪取が多く、3人でシュートまで持ち込む場面が多く見られた。パス本数は0本(ドリブル)もしくは2本で攻め込む形が多く、ボール保持者に対してクロスプレーで近づく動きと離れていく動きをしていた。

ミドルサードでは、センターライン上にボール奪取位置が集中し、カウンターアタック数の約半数がミドルサードから仕掛けていた。4人の選手が攻撃に関わり、3~4本のパスで攻撃し

ていた。

ディフェンディングサードでは、ペナルティエリア周辺でのボール奪取が多く見られたが、カウンターアタックに上手く繋がられない場面があった。5~6本のパスを5人で繋ぎシュートまで持ち込んでいた。

## 4. 考察および結論

ファーストプレーをドリブルで開始するという戦術は、アタッキングサードで有効だと言える。そうすることで、相手DFを引きつけフリーな選手を生まれやすくする。ミドルサード、ディフェンディングサードでは、ゴールまでの距離が長いので、ボールをもらってから考えている速い攻撃はできない。そこで、機械的にプレーすることが出来れば、より速く攻めることが出来る。また、相手選手を引きつけて背後にスペースを作り、そこに走り込む形が多く見られた。相手の守備が整っていない状況をどう生み出すのかが鍵になってくる。また、カウンターアタックを仕掛ける際に、相手選手の帰陣が速ければ、カウンターアタックをやめてポゼッションに戦術を変える判断が必要になってくる。

## 引用・参考文献

濱名裕介(2010)サッカーにおけるカウンター攻撃の有効性に関する研究.2010年度びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部 卒業研究抄録集.

長澤靖夫(2007)サッカーにおける戦術の発展傾向について-ワールドカップ2006の分析から-仙台大学大学院スポーツ科学研究科修士論文集 Vol.8,2007.3etc.